

(臨床研究に関する公開情報)

静岡医療センターでは、下記の臨床研究を実施しております。この研究の計画、研究の方法についてお知りになりたい場合、この研究に検体やカルテ情報を利用することをご了解できない場合など、お問い合わせがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。なお、この研究に参加している他の方の個人情報や、研究の知的財産等は、お答えできない内容もありますのでご了承ください。

[研究課題名]

心不全患者における行動変容と予後との関連の調査

[研究責任者]

リハビリテーション科 理学療法士 鬼頭 和也

[研究の概要]

心不全患者は再入院を繰り返す病態であり、2次予防に向けた介入が必要不可欠である。心不全増悪の要因には、医学側の要因のみならず、患者側の要因も多く存在し、患者自身による疾患管理が重要となる。そのため、患者自身で疾患管理が行えるような患者教育や、動機づけによる行動変容の促進が重要となる。一方、動機づけとは、心理学の分野では行動や心の活動を調整する心理行動的なプロセスであり、心疾患患者においても、動機づけが運動継続に影響を与えることが報告されている。運動継続は心不全患者の運動機能を維持するのみならず、予後を改善させる効果があり、心不全管理において重要な因子の一つである。

これらより、心不全患者においても動機づけによる行動変容の促進が重要であると考えられる。しかし、心不全患者において行動変容の促進と予後に関する報告はまだない。

よって、本研究では、心不全患者における退院時の行動変容と予後との関連を検討することとした。

[研究の方法]

●対象となる患者さま

承認日から西暦2024年3月31日までに静岡医療センターに心不全の診断で入院し、リハビリテーション科の介入があった方

●利用する検体、カルテ情報

- ① 背景因子（年齢、性別、身長、体重、Body Mass Index、病歴に関する情報、同居家族、介護度、入院前の住居、心不全再入院の有無、New York Heart Association分類、クリニカルシナリオ、処方薬、退院先、在院日数）
- ② 血液所見（Alb、CRE、BUN、CRP、Na、BNP、e-GFR）
- ③ 心臓超音波検査（LVEF、LAD、E/e'）
- ④ 理学療法評価（下肢伸展挙上テスト、握力、Short Physical performance Battery、最大歩行速度、Barthel Index、National Center for Geriatrics and

Gerontology-Activities of Daily Living Scale、Mini-cog、)

⑤ 行動変容(ヨーロッパ心不全セルフケア行動尺度、Behavior Regulation Exercise Questionnaire、Pittsburgh rehabilitation participation scale)

[個人情報の取扱い]

利用する情報からは、お名前、住所など、患者さまを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さまを特定できる個人情報は利用しません。

[問い合わせ先]

国立病院機構静岡医療センター

鬼頭 和也 理学療法士 リハビリテーション科

電話 055-975-2000 FAX 055-975-2725